まんのう町教育委員会だより

爽風（そうふう）

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 33

令和4年【2022】
10月1日 発行

特集 未来につながる「深い学び」

Contents

P.6～7　園・学校ウォッチング
満濃南小学校・長炭こども園
P.8　先生方も学んでいます
P.9　シリーズ「声」
P.10　ホッとニュース
P.11　関係機関から

未来につながる「深い学び」とは

今、「主体的・対話的で深い学び」が求められるわけ

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、生産年齢人口の減少等により、社会は急激に変化を続けています。そんな予測不能ともいわれる時代をたくましく生きぬいていかなければならない子どもたちに今求められているのは、次のような学びです。

- 社会で起こっている問題の多くは、容易に解決できるものではありません。問題を自分のこととして受け止め、解決までの道のりがいかに困難であっても、あきらめずに取り組み続ける**主体的な学び**
- 社会で起こっている問題の多くは、自分一人で解決できるものではありません。周囲の人たちとうまくコミュニケーションを図りながら、協働してよりよい解決策を見つけていこうとする**対話的な学び**
- 直面する問題を多面的にとらえ、試行錯誤を繰り返しながらその本質に迫り、納得できる解決を得ようとする**深い学び**

「主体的・対話的で深い学び」は、今回改訂された学習指導要領（小学校は令和2年度・中学校は令和3年度から全面実施）が求める学びであり、今年度の「まんのう町学校教育実践指針」にも明記されています。現在、町内の各学校は、これらの学びを実現するための授業改善に取り組んでいるのです。

また、変化の激しいこれからの時代は、今ある知識や技能がすぐに通用しなくなります。したがって、高校や大学までに得た知識や技能だけで生きていくことは難しく、生涯にわたって学び続ける必要が生まれます。

それは、余暇的な意味合いが強かった従来の「生涯学習」とは異なり、生きるためにどうしても必要な学びです。学校を卒業した後も自らの力で学び続けていくことを容易にするのは、児童、生徒時代に培った「主体的・対話的で深い学び」の姿勢だといえましょう。

「深い学び」は「つながる」学び

文部科学省で初等中等教育局視学官も務めた田村学教授（國學院大學）は、**「深い学び」では知識・技能がつながる**として、次の3つの状態を挙げています。

◆知識・技能がつながる3つの状態

❶互いにつながる
知識や技能がバラバラではなく、意味を持って互いにつながる。

❷場面や状況とつながる
場面や状況に合わせて、知識・技能の中から必要なものを選んで当てはめたり、いくつかの知識・技能を組み合わせたりして課題を解決していく。

❸学習の目的や方向性、手ごたえとつながる
例えば、自分の身につけた知識・技能が地域に暮らす人たちの幸福に役立つことに気づくなど、学んだことの意味や価値を実感できる。

ひたすら暗記したり、何度も繰り返し練習したりする学習も、知識や技能を身につけるうえでは大切です。しかしながら、このような学習や、丁寧な説明を聞いて分かった気になる受け身の学習だけでは、これからの時代を生きぬいていく知識や技能を身につけることはできません。

なぜなら、それらは意味を持ってつながっていないため、場面や状況に応じて必要なときに取り出すことが困難なうえ、時が経てば忘れられ自然消滅してしまうからです。

知識や技能は使えば使うほどつながり、構造化され、ネットワーク化されていく、と田村教授は言います。だからこそ、知識や技能を使い、それらがつながる状態をつくることのできる「深い学び」が、今求められているのです。

参考：『Guideline』特集2（河合塾 2017.11）

「深い学び」は「学び続ける」学び

難しい話を聞いた後「質問は？」と問われて、「『何が分からないか』が分からない…。」と心の中でつぶやいたことはありませんか？学びにおいては、理解が深まれば深まるほど、分からないことやまだ知らないことが明らかになってくるものです。

「深い学び」は、次の学びにつながる「新たな問い」を生む学びでもあるのです。

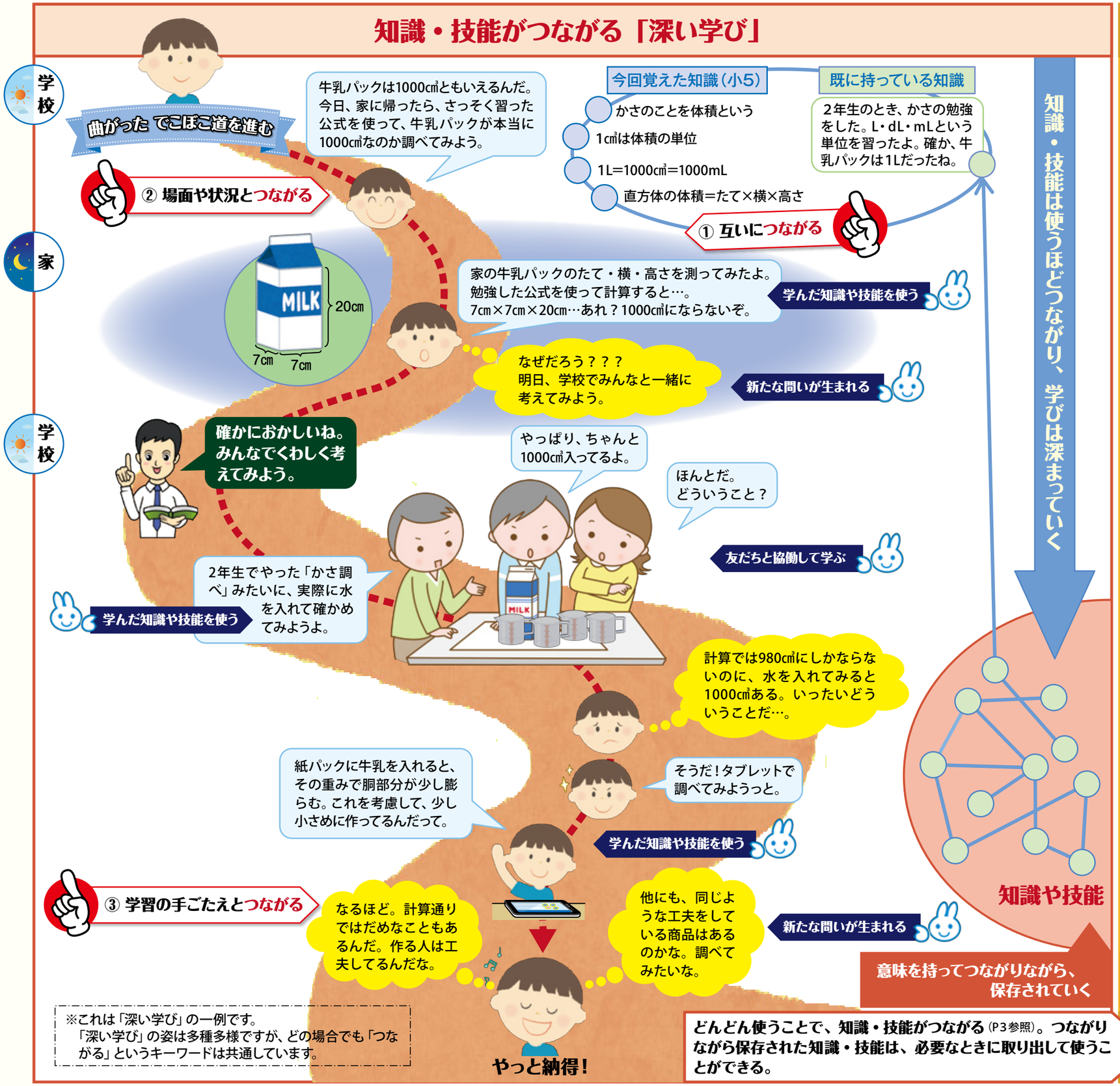
どんな理解も孤立して存在することはなく他の理解と密接につながるのが普通だから、一つのことが分かるとそれが他の理解に影響し、そこでまたあらたに納得や疑問が生まれる。しぜん視野が広いほど、その働きもいちじるしい。

だから少し難しい言いかただけれど、〝分かれば分かるほど、ますます分からないことが増える〟ことになるのである。なにか一つわかると二つも三つも疑問が出てくるということ、これこそ理解発展の本当の姿だと言ってよい。

上田　薫（教育学者）
『人が人に教えるとは』（医学書院：1995年）より

学べば学ぶほど、自分が何も知らなかったことに気づく、気づけば気づくほど、また学びたくなる。
アルベルト・アインシュタイン（物理学者）

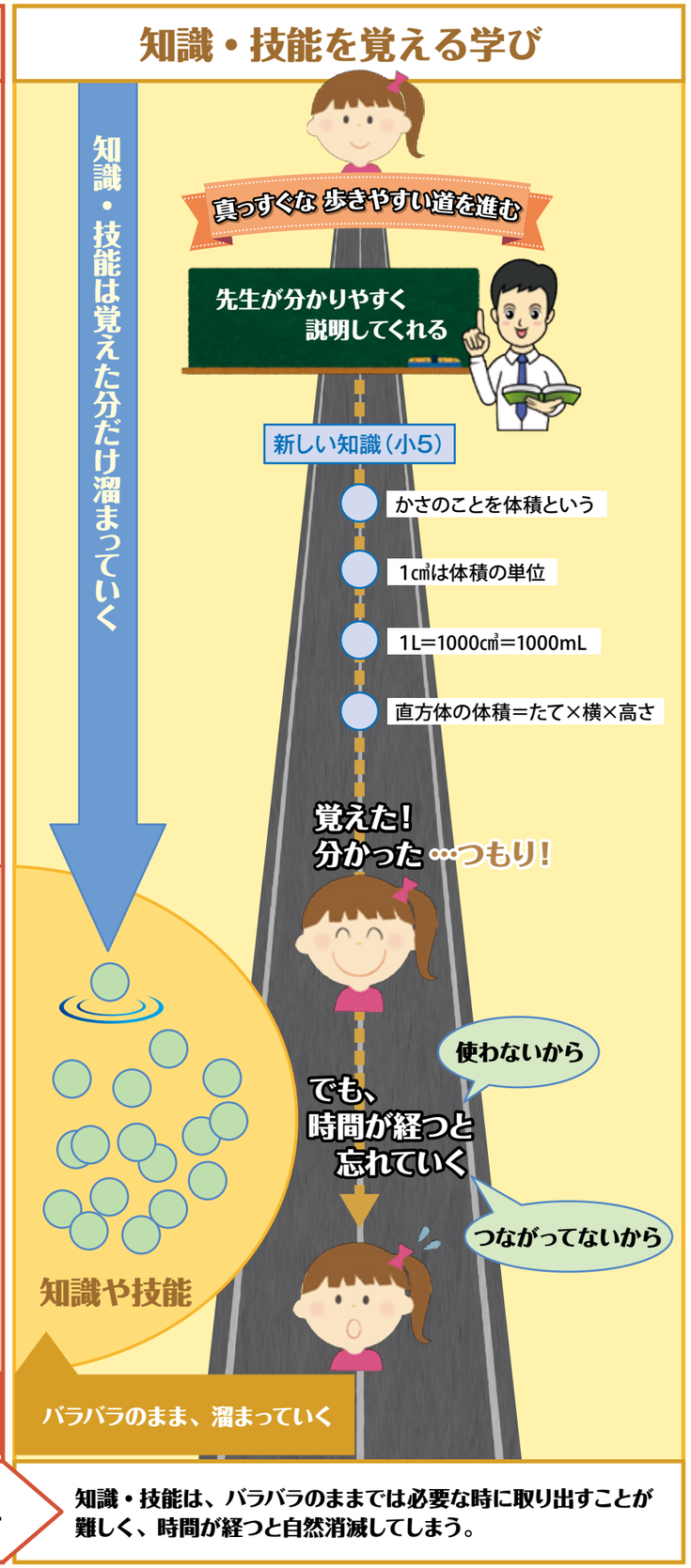
知識・技能がつながる「深い学び」



※これは「深い学び」の一例です。
「深い学び」の姿は多種多様ですが、どの場合でも「つながる」というキーワードは共通しています。

どんどん使うことで、知識・技能がつながる（P3参照）。つながりながら保存された知識・技能は、必要なときに取り出して使うことができる。

知識・技能を覚える学び



知識・技能は、バラバラのままでは必要な時に取り出すことが難しく、時間が経つと自然消滅してしまう。

園・学校ウオッチング

コミュニティ・スクールとしての活動に取り組み始めて3年。
本校では、子どもを地域ぐるみで育てようとする地域のよさや特色を生かし、これまで以上に地域と連携したしくみを整え、教育活動の充実に努めています。

南小の伝統「緑米づくり」体験学習

緑米づくりは、5年生が総合的な学習の時間に取り組む活動で、始まってから20年余りになる本校の伝統です。本年度も地域の勝手連ファーマーズの皆さんの指導で、学習が始まりました。

6月3日に籾まきを行い、6月24日に神野公民館横の水田で、勝手連の皆さんの手ほどきを受けながら、児童が田植えをしました。多くの児童が自分の手で苗を植えるのは初めてで、慣れない水田に足を取られ、手こずっていましたが、勝手連の皆さんの丁寧な指導と、「○○さん、上手！」「よし！頑張れ」という励ましの言葉に勇気づけられ、子どもたちは元気に作業をすることができました。

初めての経験

温かなまなざしと声かけに守られて

地域に支えられて育つ南小の子どもたち

登下校の見守り「南小防犯パトロール隊」

平成18年度から始まった「南小防犯パトロール隊」。「無理せず、気軽に」を合言葉として、児童の登下校の安全を見守ってくれています。

今年度は、これまで登録していた方に加え、新たに募集したところ、32名の方が協力してくれることになりました。

地域の皆さんの温かなまなざしと声かけにより、子どもの安全は保たれ、児童は安心して登校することができています。

「やってみよう」を育む体験活動

夏休みは、子どもが家庭や地域の中で計画的に過ごし、普段できないことに挑戦しながら自分のよさを発見できる時間です。

今年の夏休み、神野・吉野の両公民館では、夏休みの宿題（絵画・ポスター）お助け隊、キッズ防災スクール、トールペイントや陶芸教室など、児童を対象としたたくさんの体験教室を用意してくれました。普段、取り組むことができない活動に子どもが積極的に挑戦し、体験を通して学習することができています。

このような体験は、子どもの興味・関心を広げるだけでなく、「やってみよう」という心を芽生えさせ、学習に向かう力につながっています。

夏休みの強力な助っ人

学校支援の拠点となる公民館

以上のような活動を充実させるためには地域の支援が必要です。本校では、神野・吉野両公民館がその拠点となっています。児童の体験活動だけでなく、樹木の剪定等の環境整備や、学校が必要とする情報を提供してくれており、それが教育活動の充実につながっています。

地域のつながりが希薄になりつつあると言われる昨今ですが、南小校区の地域のつながりは健在です。子どもたちは地域の温かなつながりの中で、豊かな心を育み、安心して何事にも挑戦し、自ら学ぶ力を培っています。

地域の人たちとの貴重な体験

子どもたちへの贈り物
～ 素敵な出会いとつながって ～
長炭こども園

表現のプロフェッショナル　心弾む出会い

「コロナ禍でも、子どもたちに豊かな経験を」という思いが繋いでくれた出会い。今年度の「芸術士」の方たちとの出会いは、まさしく「自分の思いの枠を超えた出会い」でした。

イタリア人の芸術士、ルカさん。子どもたちの思いを受け止め、尊重する姿。困難だと思われる時にも、その子のやり方を否定せず、少しだけヒントを示し、一緒に考えていこうとする姿勢。

子どもたちが「一本の紐に身体を触れずに進む」ということに、どれだけの神経を使ったことでしょう。どうすればくぐり抜けて次に進めるか、ゴールへの道筋を考え、そこにペアを組む友達がいれば、お互いの動きも二人で息を合わせ考えていかねばなりません。

紐を張り巡らせたこの空間の中で子どもたちは、ルカさんとの間にたくさんの気づきがあり、達成した喜びと心を通い合わせた嬉しさに笑顔があふれていました。

もう一人、「ムーさん」こと、村井さんとの出会いは、保育室に入った所から。

子どもたちが入っていくと、ムーさんは子どもたちに声をかけるでもなく淡々とストレッチを始める。すると、一人、二人…と子どもたちが集まって来て、ムーさんの動きを見て同じように動こうとしています。言葉を交わさなくてもお互いに思いはしっかり交わされているように感じました。

紐に身体が触れないように

一生懸命
動きをまねて

子どもたちの心をぎゅっと掴んだムーさんは、ようやく本番へ。心臓に響くリズム感あふれる音楽に合わせ、ムーさんの世界観いっぱいの表現に魅了され、片時も視線をそらさずに、その動きを真似ようとする子どもたち。その姿は、躍動感に溢れ、とてもエネルギッシュでした。

芸術士さんからの贈り物は、子どもたち一人一人の視点を個性として尊重し、多様な価値観に耳を傾ける温かさに満ちた広い心。きっと、そういう心に触れながら、子どもたちは互いを認め合い、個性と社会性を両立させていくのだろうと思いました。

自然の案内人　不思議に出会う

自然の奥深さを知り尽くした人、地域おこし協力隊の水沼さんと岩井さんとの初登山。

「山を歩く」ことがこんなに楽しくてスリルがあって…。山道を歩きながら木漏れ日を見て、「きらきら光る道みたい！」。木々の葉っぱもよくよく見ると、「虫食い葉っぱ」「ゆらゆらゆりかご葉っぱ」「色付き葉っぱ」等々、一枚一枚どこか違うことに気づかせてもらう時間。斜め道、坂道、一本橋…道も様々だから歩き方も様々。

自然は、時として優しくもあり、力強くもあり、厳しくもあり、そんなことも感じさせてくれました。

生命が主役の自然界。その中に一歩足を踏み入れると、私たちが気づかなかったことやものへと出会わせてくれる地域おこし協力隊の方々。どきどきわくわく、子どもたちも私たちも探検隊気分で向かう先には、ありのままの思いを言葉と表情で表現する子どもたちがいました。

子どもの経験を彩って

園内だけでは経験することのできない人・もの・ことにかかわっていけるのは、保護者・地域の方、繋がりを橋渡ししてくださる人たちの支えがあってこそ。

絵本の読み聞かせ――いつもは読み手の職員も、この日は子どもたちと一緒に聞き手になり、絵本の世界に浸れる時間。

花育活動――子どもたちから大切な人へ感謝の気持ちを込めながら、花をアレンジしていく優しい時間。

さらに、日常にある地域との交流等、様々な経験の中には「子どもは文化を創ることができるし、町を変えることができる」という思いが流れているように思います。

絵本の世界に浸るひととき

すてきな景色・・・

その時々の経験が、心の肥やしとなり「人」として育とうとする力となります。今、子どもたちの世界・環境を広げるためにまんのう町全体で一緒に考え、それに協力してくれる人たちがいることに、心から感謝しています。

人権・同和教育研修会（8/18）

各校・園の若年教員が、町内人権・同和教育担当教員から、女性、子ども、同和問題、ハンセン病回復者、インターネットによる人権侵害、LGBTQ＋等様々な人権課題について学びました。

人権とは、人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利です。しかし、世の中には様々な人権課題が存在します。教員として、それぞれについて正しく理解して、子どもの指導に当たることが大切です。

先生方も 学んでいます！

まんのう町教育研究所では、夏休み中、感染症対策を行いながら、いろいろな教員研修会を開催しました。たくさんの先生方が主体的に学びました。

いのち支えるゲートキーパー養成講座（8/24）

講師のスクールカウンセラーと保健師から、子どもの内面理解や子どもたちの言動に対する対応の仕方を学び、子どもたちが安心して学校や園生活を送ることができるように指導力を高める研修を行いました。

いつもと違うことに気づける心のゆとりをもって子どもたちと関わりたいですね。

存在を認める関わりを心がけ、安心感を与えることが大切です。

就学前教育研修会（8/9）

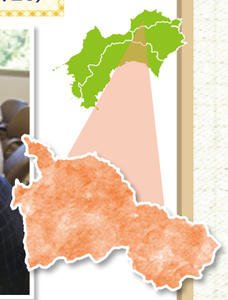
こども園の先生方が、香川大学教育学部松本博雄教授から「子どもの声を聴きとる乳児保育」について、講演を聞きました。

子どもが「自分で選び決める」体験を大切にしたいですね。

幼小接続部会研修会（8/26）

こども園の5歳児担任と小学校1年担任が参加し、小学校に入学した児童がスムーズに学校生活をスタートできるように、カリキュラムや支援などの工夫について話し合っています。

「まんのうのすがた」編集委員会（7/25・8/26）



小学校3・4年の社会科では、まんのう町の自然、歴史、人々の仕事、消防、交通などについて学習します。子どもたちが学習するために不可欠な副読本「まんのうのすがた」を、町内の小学校の先生方が3年ごとに編集しています。

シリーズ『声』

第19回　水泳学習で成長する子どもたち

今年の夏は、例年になく暑い夏となりました。夏の子どもたちの楽しみな学習の一つに水泳学習があります。今年度の町水泳記録会は直前で中止となりましたが、各学校では感染症予防に努めながら、一人一人の子どもの力を伸ばす水泳学習が行われました。水泳の指導に取り組んだ先生方の「声」を聞きました。

協力し、認め合う仲間とともに

私は今年5年生の担任になりました。子どもたちはとてもエネルギッシュで、毎日たくさんのエネルギーをもらっています。

6月から始まった水泳学習。最初に行った泳力テストでは、25メートルを泳ぎ切った子どもは3分の1程度でした。水泳に対する苦手意識の強い子どもが多かったように思います。

そこで、クラスを5つの班に分け、班ごとにリーダーを置きました。そのリーダーを中心に、子どもたちが教え合います。子どもたちにとって、今までに経験したことのない学習の仕方だったため、最初は戸惑っていましたが、「もっとこうしてみて」とアドバイスをする子、「どうすればいいかな?」と聞く子など、少しずつ教え合う姿が増えていきました。

最初の記録測定。素敵な姿がたくさん見られました。友だちの泳ぎを一生懸命応援する子、友だちが初めて25メートルを泳ぎ切ったことを我が事のように喜ぶ子、タイムが伸びた友だちに「やったね」と声をかける子、と様々でしたが、どれも班での教え合いを通して、互いを認め合う経験をしたから見られた姿だと思います。

最後の記録測定では、クラスの全員が25メートルを泳ぎ切ったり、記録を伸ばしたりすることができました。苦手意識もかなりなくなりました。

子どもは誰もが「できるようになりたい」と思っています。水泳学習をする子どもたちの姿から、強く感じました。子どもたちは、水泳学習を通じて、友だちと協力し、認め合うことで自己の成長を実感したことでしょう。これからも、水泳学習で学んだように、友だちと力を合わせ、「できた!」を増やしてほしいと思います。

高篠小学校　教諭　田中　大地

努力した過程を大切に

今年の町水泳記録会は、新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け、直前で中止となりました。水泳記録会に向けて、授業での水泳学習に加え、放課後の特別水泳練習に励んでいた子どもたちは中止を知って、残念そうにしていました。

しかし、子どもたちには、これまで頑張った過程を大切にしてほしいと思います。水泳学習が始まるにあたり、子どもたちは、それぞれ「泳げる距離を伸ばしたい」「タイムを縮めたい」などの目標を立てました。授業や特別水泳練習を通して、どの子どもにもその目標に向かって努力した事実はあります。その結果、「最初は50メートルの距離が泳げなかったけれど、途中で一回も立たずに泳ぎ切った」「最初よりもタイムが縮まった」など、それぞれに成長した姿が見られるようになりました。また、チームで進んでリレー練習に取り組む子どもたちの姿を見て、私もうれしくなりました。主体的に取り組む子どもたちが育っていったと思います。

また、今年度は、海上保安署の方を招き、全学年が着衣泳を行いました。水泳学習に際して、毎年子どもたちに最初に伝えるのが命を守ることです。プールや川、海で過ごすのはとても楽しいと思いますが、事故に遭うこともあります。

今回は、服を着てプールに入ったことで、水に濡れたときに服が重くなることや靴やペットボトルを胸の上あたりに置くことで浮きやすいこと、ライフジャケットを着てどのように浮くとよいかを、体験を通して学ぶことができました。自分の命を守りながら今後も水に親しんでほしいと思います。

最後に、「結果は大切であるが、過程はもっと大切である」何かに努力して最後まで取り組んだ経験はこれからの人生においても大きな糧になるはずです。今後もいろいろな活動や学習、そして人生を歩む子どもたちが、今回のように過程を大切にしながら、目標に向かって成長を続けられるよう支援していきたいと思います。

琴南小学校　教諭　池田　和樹

熱く燃えた夏　満濃中学校

■郡市総体（団体）

部　活　名		結 果
剣　　道	男子	優　勝
	女子	優　勝
軟式野球		準優勝
ソフトボール		準優勝
バレーボール	男子	優　勝
	女子	優　勝
卓　　球	男子	準優勝
	女子	準優勝
柔　　道	男子	準優勝
バスケットボール	男子	優　勝
サッカー		優　勝
水　　泳	男子	準優勝
	女子	準優勝
	男女総合	準優勝

■郡市総体（個人）

部　活　名		結 果	
剣道	男子	優　勝	千葉康太郎
		準優勝	小嶺　芽來
	女子	優　勝	松岡　陽奈
		準優勝	福留あいり
卓球	男子（シングルス）	準優勝	渡辺　大聖
	女子（ダブルス）	優　勝	片山　瑠菜 増田　娃花
柔道	男子（55kg級）	優　勝	小亀　陽音
		準優勝	増田　龍輝
水泳	男子（100mバタフライ）	優　勝	近石　大翔
	女子（200m自由形）	優　勝	髙田　月姫

※　郡市大会の結果は、紙面の都合で、優勝・準優勝のみを掲載させていただきました。

■県総体（団体）

部　活　名		結 果
剣　道	男　子	準優勝

■県総体（個人）

部活名	結 果	
水泳男子（200m平泳ぎ）	福江　結太	準優勝
剣道女子	福留あいり	３位

■四国総体

部　活　名		結 果
剣　道	男　子	３位

■四国総体（個人）

部活名	結 果	
水泳男子（200m平泳ぎ）	福江　結太	３位

■香川県なぎなた選手権大会（個人）

種　目	結 果	
演技競技	本屋敷　優（他校選手とのペア）	優　勝
	境　　美菜 境　　香菜	準優勝
試合競技	本屋敷　優	準優勝
	境　　香菜	３位

◆今村翔吾さん来町◆　（7月1日）

『塞王の盾』で第166回直木賞を受賞した今村翔吾さんが、全国の書店、学校などを巡る旅をしています。まんのう町では、琴南小学校、満濃中学校、町立図書館に来られ、子どもたちに話をしてくれました。

琴南小学校

一緒に行く動物を変えるとしたら？

満濃中学校

1・2年生が話を聞きました

今村さんは、以前ダンス教室の先生をしていました。夢をあきらめかけた生徒に忠告した時、逆に「先生も夢をあきらめたのに」と反論されたことをきっかけに、小さい頃からの夢だった作家になる決意をし、現在につながったそうです。その経験から、**夢をあきらめないで**というメッセージが伝えられました。

絵本の読み聞かせ

読みたい時に読みたい本を読むといい

小説の構想を練る時、いろいろな事柄にイメージを広げていると言い、昔話「桃太郎」の登場人物を変更するワークショップを通して、**イメージを広げることの大切さ**を教えてくれました。

また、低・中・高学年ごとに、学校図書館にある本の中から、おすすめの本を紹介したり、絵本の読み聞かせをしたりしてくれました。

町立図書館

著書にサインをしてもらう

関係機関から

子育てで大切にしてきたこと

♪♬ おかあさん　なあに　おかあさんて　いいにおい
せんたくしていた　においでしょ　しゃぼんのあわの　においでしょ

夕暮れ時になるとテレビから流れてくる童謡『おかあさん』が娘は大好きでした。顔を合わせて一緒に歌いながら、ぎゅっと抱きしめると愛おしさが胸にこみ上げる癒しの時間でした。

お腹の中にいる時は「無事に生まれてきて」、誕生後は「元気で素直な子になって」、それが望みでした。でも、子の成長とともに親自身の期待や願いは増えていきます。多忙感はイライラ気分を募らせます。私と娘は別の人間なのに、親の都合で叱ったり、あれこれ口出しをしたり。

ある時、娘が目に涙をいっぱいためて言った言葉。

「家の中では『おかあさん』でおってほしい。」

頭を殴られたような思いでした。家の中でも仕事の雰囲気を引きずっていたのでしょう。そういえば、最後に私たちが顔を合わせて、一緒に歌って、ぎゅっと抱きしめ合ったのはいつだったか。それ以来、どんなに多忙でも、娘が思春期になっても、「〇〇ちゃんは我が家の宝物」「大好き」と伝え抱きしめることが日課となりました。「はいはい」と言葉を返す娘の横顔は、決して険しいものではありません。

家庭は子どもにとって安心・安全な基地であることが望まれますが、それは親の心にゆとりがあってこそ。心に余裕がある時は、子どもへの言葉かけや接し方は優しさにあふれたものとなります。子どもの心の声や小さな変化にも早めに気付き、親としての支援や手助けを考えることができます。

では、心に余裕がない時は？

一呼吸置いて、まずは今日一日頑張った自分をねぎらい褒めてあげましょう。そして美味しいお菓子でも食べて落ち着けば、1分でもいい。子どもと目線を合わせてスキンシップ（ハグ・手をつなぐ・握る・握手等々）をしてみませんか？

子ども自身の「愛されている」という気持ちは、安心感や信頼感につながり、自分の存在に自信をもって生きていく力になっていきます。

時は流れ、娘も一児の母となって育児と仕事に奮闘しています。その様子を通して私自身が子育てを振り返り、育児は育自であったのかもしれないなあとじんわり感じるようになりました。

「〇〇ちゃんはママの宝物」いつかの私と同じ言葉をかける娘。たくさん失敗もしたけれど、娘と私の大切な時間が少しでも娘の「今と未来」を支えているならば嬉しいです。

（満濃中学校区　スクールカウンセラー　須崎　仁美）

ボール大好き！

※写真と本文は無関係です

※　須崎仁美さんは、香川県教育委員会からまんのう町に派遣された２名のスクールカウンセラーの一人です。もう一人の熊谷由紀さんと二人で満濃中学校を拠点として小学校を３校ずつ担当し、相談活動を行っています。

まんのう町教育委員会だより 爽風 Vol.33
令和4年【2022】10月1日発行

編集後記

私は自分がリンゴを作っていると思い上がっていました── そう語るのは、青森県弘前市のリンゴ農家、木村秋則さん。世界で初めて無農薬、無施肥でのリンゴ栽培に成功した人です。リンゴは古くから「農薬で作る」と言われるほど病害虫の多い農作物であることから、木村さんの無農薬リンゴは『奇跡のリンゴ』とも呼ばれています。

そのリンゴづくりは、苦難の連続でした。取り組み始めて6年、7年と経っても、一向にリンゴの花は咲かず、無収穫、無収入の年が続きます。あまりの貧乏に、ついに死を決意した木村さんは、ある日、ロープを手に岩木山に登りました。ところが、その山で、起死回生ともいえる発見をしたのです。

それは、1本のドングリの木がきっかけでした。のびのびと枝を伸ばし、たくさんの葉を茂らせた美しい木。農薬などまいていないはずなのに、なぜこんなに元気なのか…。その秘密を土が教えてくれました。

雑草に覆われ、足が沈むほどふかふかの土。それは、多様性が保持され、いろいろな生き物がいる山の中だからこそできた土だったのです。バランスのとれた生態系の中では、農薬をまかなくても虫は増えない！──死ぬために来たことも忘れ、木村さんは山を駆け下りました。

チャレンジを始めて11年目。リンゴの木はついに花を咲かせました。農薬は使わず、畑の虫をよく調べてそのバランスを保つようにしているという木村さん。そのリンゴは、平成3年秋に台風の直撃を受けたときも、その8割以上が枝に残ったといいます。通常数メートルといわれる木の根は、20メートル以上にも伸びていたのです。

表面が変色して腐ることはないという木村さんのリンゴ。そのリンゴを実らせるのはリンゴの木であって、人間はそのお手伝いをしているだけ── これが、10年以上の苦難を乗り越え夢を実現させた、木村さんの気づきです。

この気づきは、そのまま子育てにも当てはまるように思います。大人がどんなに熱心に「育てよう」としても、子どもの側に「育とうとする力」がなければ、それは空回りに終わってしまう。困らないように、と困難を取り除きすぎると、この先出合うであろう山や谷を乗り越えていく力を衰えさせてしまう。子どもがその根をしっかりと伸ばし、自分の力で養分を吸収しながら、たくましく、そして自分らしく生きていける生命力を育むこと── そのための土づくりに惜しまず手間をかけることこそが、子育てにおいて肝要ではないかと思うのです。

（Y. T）

表紙絵：常包 琉可（満濃中学校美術部2年）

次号予告
（12月1日発行）

特　集
園・学校ウォッチング
豊かな人権感覚を育てる
四条小学校・仲南こども園

発行責任者：まんのう町教育委員会　〒769-0313　香川県仲多度郡まんのう町生間415番地1
TEL（0877）89－7100　FAX（0877）89－8100